

図書館史研究会事務局



振替口座

・ 藤野研究室

— 本号の主な内容 —

- ・ 「帝国図書館の寄贈・寄託資料について」 ..... 中林 隆明
- ・ 事務局より

帝国図書館の図書館の寄贈・寄託資料について

— 付・ 国立国会図書館の寄贈・寄託資料 —

中林 隆明

(国立国会図書館)

図書館の資料収集の方法として、一般に購入、交換と並んで、寄託(委託)、寄贈がある。戦前の帝国図書館は、国内刊行の新書については、その前身の東京書籍館、東京図書館以来、内務省納付本のうち1部を内務省交付本として受領した。これは准刻事務が文部省にあったときからの慣例で、明治8年7月内務省に当該事務が移るに及んでも変わることがなかった。例えば、明治9(1876)年の刊和漢書の交付本が3,874冊、同33(1900)年1,577部3,039冊、同44(1911)年2,022部3,147冊、大正14(1925)年3,933部5,923冊、昭和10(1935)年5,365部8,747冊となり、次第に出版点数に応じて増大していることが窺われる。

ところで寄贈については、明治13(1890)年制定の東京図書館規則(同館年報—帝国図書館年報(1974.11) p.28-29)は次のように言う。

第14章 凡ソ文教ニ裨益セント欲スルノ目的ヲ以テ、図書ヲ寄贈セント欲スル者ハ、内外人ヲ論セス其題名、員数、及住所、姓名ヲ詳記シ、其図書ニ添テ、之ヲ本館ニ送達スヘシ(句読点は筆者、以下同じ)

第15章 寄贈ノ図書ヘハ、寄贈者ノ姓名年月ヲ標記シ、他の館蔵ノ図書ト一

般、之ヲ本館に保存シ、且規則ニ照準シテ衆庶ノ借覽、帶出ヲ許スヘシ

第16章 寄贈ノ図書運搬ノ際、過分ノ費用を要シ、寄贈者若シ自弁スル能ハザルトキハ、其請求ニ応シ、教育上特ニ裨益アル者ニ限り、本館ニ於テ之ヲ弁給スルコトアルヘシ

第17章 図書ヲ寄贈スル者アルトキハ、本館ヨリ之ニ甲号受領証ヲ付与シ、而シテ後、其旨趣ヲ文部卿ニ開申スヘシ

更に、委託（寄託）についても、次のごとく言う。

第18章 凡、公衆ノ閱覽ニ供スルノ目的ヲ以テ、内外図書館、学校其他、内外人ニシテ、本館ニ図書ヲ委託セント欲スル者ハ、其事由、題名、員数、価格等ヲ詳記シ、其委託ノ図書ニ添テ、之ヲ本館ニ送致スヘシ

第19章 委託ノ図書ハ都テ館蔵図書ト一般、之ヲ保蔵シ、且つ衆庶ノ借覽ヲ許スト雖モ、之ヲ館外ニ帶出スルヲ許サス

第20章 委託ノ図書ハ厚ク之ヲ保蔵スト雖モ、不幸ニシテ火難、盜難、或ハ天災ニ罹テ損敗、失亡スルモ本館ハ其責ニ任セサル者トス 但不注意ニ係ル損敗亡失ノ如キハ、或ハ同種ノ図書ヲ購還シ、或ハ至当ノ代価ヲ弁償スヘシ

第21章 図書ノ委託ヲ受ルトキハ、本館ヨリ乙号受託証ヲ付与シ、而シテ後其旨趣ヲ文部卿ニ開申スヘシ

そこで次に、上記の寄贈と委託（寄託）の内、大口資料の具体的实例を「帝国図書館年報」を中心に追ってみたい。いずれも戦後、その蔵書を引き継いだ国立国会図書館が現在襲蔵している。因みに、東京書籍館は明治8（1875）年4月から10（1877）年2月、東京府書籍館は同10年5月から13（1880）年、東京図書館は同13年7月から30（1897）年と続き、同30年4月帝国図書館と改称する。この館名は昭和22（1947）年12月の国立図書館を経て、同24（1949）年4月国立国会図書館支部上野図書館となり、現在に至るのである。なお、ここで言う帝国図書館は広義の帝国図書館、いわゆる上野図書館を指す。また参考までに、戦後受け入れた寄贈資料について、主として馬場万夫「国立国会図書館所蔵コレクションの紹介」（昭和62年度図書館協力セミナー「国立国会図書館のレファレンス・サービスを中心に」2 セミナーテキスト）に基づき付記した。

明治8（1875）年 〔鮫島文庫 寄贈〕

幕末の薩摩藩英国留学生の一員で、駐仏特命全權公使として在任中に死去した鮫島尚信（1845～1880）の蔵書。社会科学関係を中心とする英・仏書約 530

明治10 (1877) 年1月 [畠山文庫 寄贈]

明治初期の文部行政に参画，開成学校長，東京書籍館・博物館長等を歴任した畠山義成 (1842-1876) 旧蔵書。上述の鮫島，森有礼等と共に，薩摩藩英国留学生として渡航，英国，次いで米国で学ぶ。その間収蔵した英書を中心とする欧文図書 919冊

明治16 (1883) 年3月 [榊原文庫 寄贈]

江戸の国学者で，蔵書家としても令名のあった榊原芳野 (1832-1881) 旧蔵書。嗣子立次郎氏寄贈。古活字版，手沢本を含む古典籍 1,100点約 7,000。この功績を嘉して，同25年10月賞勲局は銀盃1組を下賜

明治23 (1890) 年 [森文庫 寄贈]

初代文部大臣森有礼 (1847-1889) の旧蔵書。森の暗殺後 (1889) ，若年の子息清 (当時13歳) に代わって，宮川久次郎から和漢洋書が納付・委託され，翌年 (1890) ，その内和漢書 904冊が寄贈，洋書は明治30 (1897) 年森清宛に返却された (但し，10冊余現存。その間の事情については『参考書誌研究』38号 (1990年10月刊行予定) を参照されたい)

明治25 (1892) 年 [塩田文庫 寄贈]

未亡人塩田キン寄贈。明治22年5月任地，北京で客死した特命全権公使塩田三郎 (本名篤信 1843-1889) の蔵書。「公益ノ用ニ供スベシ」との遺言に基づくもので，洋書約 750冊 (主に英書)。同氏はつとに幕末明治初の日本外交の第一線にあり，蔵書はその関心をよく反映する。当時の有数の英書コレクション

明治41 (1908) 年8月 [水野年方旧蔵書 寄贈]

日本画家，水野年方 (1866-1908) 旧蔵資料。新聞・雑誌等に発表の挿絵とその下絵を含む和書等，656冊余。その後昭和19年8月にも受贈

大正4 (1915) 年12月 [今泉文庫 寄贈]

明治・大正期の美術史家，元大倉集古館館長の今泉雄作 (1850-1931) による茶道関係写本類 248冊余

昭和3（1928）年8月〔青山文庫（根岸文庫） 寄託・寄贈〕

寄託した根岸家は埼玉県吉見村（現大里村）青山の名家で、旧蔵者の根岸武香（1839-1902）は国学者、貴族院議員。公武の諸家文書、古写経、名家自筆本、江戸絵図等の地誌類、有職故実等を含む約1,000点3,500冊。昭和6年寄贈

昭和11-15（1936-40）年〔西村文庫 寄贈〕

明治初期の啓蒙思想家、西村茂樹（1828-1902）の自筆稿本86点206冊。各種の訳稿本類、日記から成る。日本弘道会の前身、東京修身学社創設。松平直亮・日本弘道会会長より3回にわたり寄贈

---

付・ 国立国会図書館の部

昭和24-28（1949-53）年〔ロックフェラー財団寄贈図書〕

社会科学、文学関係洋書約6,000冊

昭和26（1951）年〔子規資料 寄贈〕

正岡子規（1867-1902）自筆稿本、遺墨類47点155冊等

昭和26（1951）年3月〔映画協会寄贈図書〕

映画関係和洋図書約43,000点

昭和26（1951）年6月〔尊徳文庫 寄託〕

二宮尊徳（1787-1856）関係文書約10,000点。静岡県掛川の働報徳会の寄託資料で、『二宮尊徳全集 全36巻』（1927-32刊）の原本

昭和27-37（1952-62）年〔お茶の水文庫 寄贈〕

日本出版販売寄贈の一般書（和書）約70,000冊

昭和29-30（1954-55）年〔読書週間記念文庫 寄贈〕

読書週間実行委員会が寄贈した洋書約1,000冊

昭和29-35 (1954-60) 年 [幣原平和文庫 寄贈]

元首相幣原喜重郎 (1872-1951) の業績を記念して設立された幣原平和文庫による平和問題、国際関係の和洋図書約 6,000冊

昭和34 (1959) 年 [能勢文庫 寄贈]

ロシア研究家で、国立国会図書館元職員能勢寅造 (1902-1957) の露文を中心とする洋書 550冊和書 3,000冊等

昭和34-35 (1959-60) 年 [芦田文庫 寄贈]

元首相芦田均 (1887-1957) 旧蔵の国際関係英仏書約 2,000冊

昭和35 (1960) 年 2月 [芳沢謙吉記念文庫 寄贈]

元中華民国大使、芳沢謙吉 (1874-1965) を記念して設立された芳沢中国記念事業財団収集の中国関係図書約 5,000冊 (主に和漢書)

昭和36 (1961) 年及び38 (1963) 年 [瀬越囲碁文庫 寄贈]

囲碁棋士瀬越憲作 (1889-1972) 旧蔵、幕末・明治の囲碁関係の和書 500点

昭和37-38 (1962-63) 年 [浅沼稻次郎旧蔵書 寄贈]

元日本社会党委員長浅沼稻次郎 (1898-1960) 旧蔵の戦前期社会主義運動、戦後日本社会党関係資料等約 3,000点

昭和39 (1964) 年 2月 [桜田文庫 寄贈]

立憲民政党政務調査館旧蔵図書、和洋計30,000冊

昭和40-41 (1965-66) 年 [住友文庫 寄贈]

住友財閥出身の住友寛一 (1896-1956) 旧蔵、聖書を含む人文科学関係書。和洋計約 4,500冊

昭和41 (1966) 年 [石井文庫 寄贈]

商法・労働法学者、元東大教授石井照久 (1906-1973) 旧蔵、法律関係図書  
和洋計 9,000冊。雑誌類20,000点

昭和45 (1970) 年 [和辻哲郎自筆稿本 寄贈]

和辻哲郎 (1889-1961) 。82点

昭和48 (1973) 年 [クラブ・コレクション]

元LC副館長, V. W. Clapp (1901-1972) 図書館・著作権関係洋書 553  
点

昭和51 (1976) 年 [坂西志保旧蔵書 寄贈]

評論家坂西志保 (1896-1976) 旧蔵の米国近代文学関係書 417冊 (主に洋書)

昭和52 (1977) 年 [長谷川文庫 寄贈]

越後新発田の藩医長谷川家旧蔵の古医書 1,600冊

昭和56 (1981) 年 [蘆原コレクション 寄贈]

蘆原英了 (1907-1981) 旧蔵バレエ, シャンソン, 演劇等に関する和書 3,900点, 洋書 5,400点, レコード 9,300点, シャンソン楽譜 5,200点, その他ポスター, プログラム等

昭和56 (1981) 年 [山本コレクション 寄贈]

ジョージ・山本旧蔵ハワイ日系移民関係資料。和書 430冊, 洋書 170冊等

昭和57 (1982) 年 [岡田ポスター・コレクション 寄贈]

元東大史料編纂所教授岡田章雄 (1908-1982) 旧蔵の日中戦争時の公債募集ポスター等

昭和57 (1982) 年 [岡田兄弟建築設計図 寄贈]

岡田信一郎 (1883-1932), 捷五郎 (1894-1976) の設計図約10,000枚

昭和62 (1987) 年 [渡辺コレクション 寄贈]

東京商船大学名誉教授渡辺敏夫旧蔵の暦関係資料約 5,000点

昭和62 (1987) 年 [堀田コレクション 寄贈]

堀田時計店主, 堀田良平 (故人) 旧蔵の時計関係書。和洋計 6,000点

昭和62 (1987) 年 5月 [布川文庫 寄託]

布川角左衛門収集の出版関係資料約10,000点

事務局より

\* 今回のニューズレターには、中林隆明氏の「帝国図書館の寄贈・寄託資料について――付・国立国会図書館の寄贈・寄託資料――」を掲載しました。国会図書館の収集部収集企画室に勤務の同氏にしてはじめて書きうる論稿かと思えます。資料としてご活用下さい。

† 第8回図書館史を考えるセミナー「緑蔭セミナー」が、9月1日～2日の両日、大東文化会館で開催されました。会員20名が参加し、熱心な討議が行われました。発表の要旨等については、次年度の機関誌『図書館史研究』第8号に掲載される予定です。

なお、同セミナーの会計を締めた結果、11,121円の黒字が残り、参加者の意向を確認したうえで、本会事務局会計に繰り入れられました（9月4日に貯金しました）。

‡ 機関誌刊行との関係による会費の見直しについて

上記「緑蔭セミナー」の終了時、ニューズレターの前号にお知らせしました機関誌刊行継続に伴う会費見直しの件を諮りましたところ、出席会員に異論はないとのことでした。いま一度、編集委員を含め、次回の運営委員会で方針を確認しますが、おおむね以下のように決定されると思いますので、お含みおきください。

来年度から、会員を2種に分け、(a)機関誌購入予約会員〔実費（1,000円）を上乗せし、会費2,000円〕、(b)機関誌非購読会員〔従来通り会費1,000円〕とする。重ねて、この件に関しご意見がありましたら、事務局まで会員各位のご意見をお寄せください。（宛先：本会事務局）

‡ ニューズレターの原稿募集

テーマ、分量は問いません。図書館史についての原稿をお寄せください。

※ 本年度会費未納の方へ

封筒の表面、宛名の紙片に「90」と印刷されていない方は、本年度会費 1,000円が未納です。2割の方がまだ納入されていません。封筒にも、このニューズレターの題字の下にも本研究会の郵便振替口座の番号が記載されていますので、郵便局備えつけの用紙をご利用されるなど、なるべくおはやくご納入願います。